

経 済

交通インフラ整備と地域経済

11年夏 駅と電停「直結」へ



▲10年6月に供用を開始したJR新水前寺駅の新ホーム。同駅の利用者数は1日あたり約5100人にのぼる



新水前寺駅地区の交通結節点改良工事

▲軌道内のアスファルト舗装も除去され、駅舎と電停の結節に向けた工事が急ピッチで進んでいる（左奥に見えるのはJR新水前寺駅の仮駅舎）



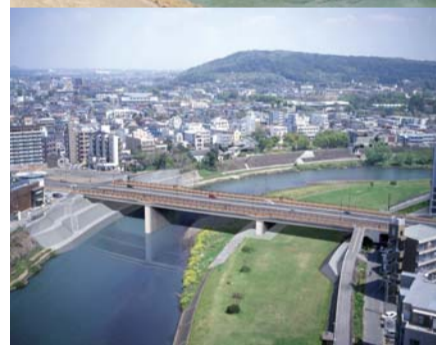
▲新水前寺駅地区の交通結節点改良工事の完成予想図（11年7月末頃のイメージ）。現在、横断歩道橋の屋根などの色合いについては最終的な調整が行われている。左の支柱構造の建物にJR新水前寺駅の新駅舎、写真奥方向が「味噌天神前」方面

1957（昭和32）年の供用開始から50年あまり。現在、熊本市は子飼橋の老朽化に伴う架け替え工事を柱とした子飼大江線の整備を進めている。事業区間は同市東子飼町一大江1丁目間の490mで、総工費は約70億円。事業計画では現子飼橋の西側（下流側）に新子飼橋を建設。12年度までに新子飼橋の橋脚、橋台工事を進め、13年度中には、暫定2車線で新子飼橋の部分供用を開始する予定だ。

13年度に暫定2車線で供用開始へ



子飼新大江線



▲現子飼橋の下流側で進む新子飼橋の橋梁下部工工事。現子飼橋は13年度以降、解体される予定

▲新子飼橋周辺の完成予想フォトモンタージュ。新子飼橋の代表幅員は27・8m（車道3・25m×4、自転車道2m×2、歩道3・5m×2）。周辺が文教地区であることに配慮し、自転車道と歩道だけで片側5・5mとゆとりを持たせた設計となっている

「新子飼橋」架橋へ向け工事本格化

JR豊肥本線「新水前寺駅」と熊本市電「水前寺駅通電停」の乗り換え利便性を大幅に向上させる新水前寺駅地区の交通結節点改良工事が進んでいる。工事は新水前寺駅を高架にし、電停をJR側に約60m移設、駅舎と電停を横断歩道橋で結ぶというもので、07年9月に県と熊本市が共同で着工した。計画では、新幹線開業に合わせて11年3月の完成を予定していたが、先ごろ、県は横断歩道橋の設置工事が遅れたため、完成が11年夏にずれ込むと発表。今後は新駅舎が完成する11年3月をめどに電停移設を先行整備し、残る横断歩道橋の設置などを7月末までに完了させ、「段階的にJRと市電の結節を行なう」（県都市計画課）という。工事は現在150mから50mに短縮される。「新水前寺」乗り換えが便利になることで、11年夏以降はさらなる利用者増が期待されている。

「新屋敷側で新子飼橋と現子飼橋が重複するため、現子飼橋の解体後でなければ、上流側2車線の道路工事に入ることにはできない」と同市道路整備課。4車線の「新子飼橋（子飼新大江線）」が完全供用となるのは15年度以降になる見通し。

朝夕を中心に道路混雑が起きやすかった子飼橋周辺だが、新橋の完成後は渋滞緩和など交通アクセスが大幅に改善すると期待されている。



▲ハローグリーンエブリーが出店する宇土シティ（宇土市善道寺町）

宇土シティ内に新店舗出店  
ハローグリーンエブリー

宇土周辺から熊本市内に通勤する人も多いため、これまで市内の店舗を利用してくれた方の利用も見込める。さらに、近郊の富合町には九州新幹線の車両基地もあり、人口増加などのプラス要素も考えられる。このような背景から宇土市周辺には十分な顧客層があると考え出店を決めた。宇土店の開業をきっかけに三角や天草の特産品も品揃えに加え、そうした商品を熊本市内の店舗で取り扱うことで相乗効果も期待できる」と出店の理由を語っている。

オープンまで臨時店舗を開設

また、同社は4月中旬のオープンまで、宇土シティ1階の中央ステージ近くに臨時店舗を開設している。取り扱いは、生鮮食品以外の調味料やラーメンなどの一般食品から飲料、菓子、米、卵などのほか、トイレレットペーパーや洗剤など、日常で必要な物も取り揃えている。臨時店舗の営業時間は午前10時から午後7時まで。同社は熊本市内に島崎、九品寺、近見、長嶺、健軍の5店舗を経営している。

オープン4月中旬



▲4月中旬のオープンまで宇土シティ1階の中央ステージ近くに開設している臨時店舗